

事業所名	グループホーム敬愛 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 1月26日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、介護福祉士2級、介護支援専門員 B:現職 元介護療養型病棟看護師 資格・経験 看護師(8年)、介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

調評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
津山市北部の広い新興住宅地にあり、グループホームの2ユニットの建物は周囲によくマッチしている。都市型公園グリーンヒルズに近く、側には河川公園や農地も多く、風光明媚なロケーションである。 歩いて行ける所に、スーパー・郵便局・信用金庫・医療機関等があり、バス停も近く、利便性の良い住環境である。 介護支援事業所・訪問介護事業所も併設され、機能的に運営を行っている。2ユニットそれぞれに特色のあるグループホームである。 初詣・お花見・紅葉狩り等、季節や自然を感じられる外出を積極的にに行っている。近隣のお祭り・納涼祭にも参加し、町内会や周囲の住民の方との関係は良好に保たれている。近くの大学の学園祭にも出かけている 車で10分程の所にある総合病院と提携し、直ぐ近くのクリニックからは随時往診がある。緊急時には直ちに対応してもらえ、入居者・家族は安心してホーム生活を過ごせる。 職員の中に、『接遇・献立・医療・おしめ・行事・写真・修繕・事故対策・防災』と9つの委員会を設け、それぞれの取り組みと提案を行い、職員の自発性を喚起してホーム生活のADL向上に努力している。 通院には、家族の付き添いの有無に関らず、必ず職員がついて行っている。病状・処置等に付いての情報を家族と共有し、家族の同意もその場でもらっており、的確な対処方法を施すことが可能である。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
取り立てて改善の余地として指摘すべき点はない。 管理者は、常に介護サービスの質の向上を目指している。職員全体のレベルアップに向け、ベテランの看護師を講師に迎えて接遇等の内部研修を積み重ねており、引き続き「敬愛」の理念の具現化を進め、地域の高齢者福祉の核となって行く事を期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>9つの委員会を設置し、「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、入居者が事故やトラブルも無く、安全に安心して毎日が暮らせる生活を目指している。</p> <p>家族が、「このホームに入って良かった」と喜びを感じ、安心して認知症高齢者を任せられる信頼を得るように努めている。また、入居者が心を癒し、ホーム生活に満足できるように導いている。</p> <p>入居者の自立を目標に、本人の個性・状況・意向等をしっかり把握し、入居者の生活リズムを尊重している。認知症であっても、その人らしい生活を楽しく暮らせるように努力している。</p> <p>職員の声は静かで優しく、入居者と共に生活する馴染みの関係の構築を目指している。また、入居者の方が来客にお茶を出すなど、家庭生活の継続も大切にしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>職員の見守りの中、入居者は味付け・盛り付け・お茶入れ等出来ることを役割として分担されており、共同生活の喜びや存在意義を感じられる場作りに取り組んでいる。</p> <p>高齢者の失われかけた潜在能力を再び蘇らせることと心の癒しのため、セラピー犬が月に1回訪れ、入居者と精神的な触れ合いが出来るように取り組んでいる。</p> <p>職員は大きな声を出さず、静かに行動しており、入居者が安心して心静かにホーム生活が送れるように努めている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者の生活スタイル・経歴等を把握し、日々新しいことを積極的に試み、入居者の潜在的な能力を引き出すように取り組んでいる。</p> <p>トイレ、風呂場にも内カーテンがあり、介助時にも入居者のプライバシーが確保できるように努力している。</p> <p>入居者の個人情報記録は、事務室の鍵の掛かる戸棚に責任を持って保管されており、個人情報情報は安全に守られている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>管理者は、全職員が積極的に介護に関する資格を持つ事を勧めており、職員は外部の講習にも意欲的に参加し、専門職員としての自己研鑽に努めている。研修内容をレポートにして報告し、施設内において伝達講習を行い、全員が共有してレベルアップするように努めている。</p> <p>「何でもノート」という伝言帳を設け、介護の現場に於ける些細な出来事・気付きを記録し、全員が把握できるようにしている。各ユニット職員の連携意識を強化し、介護資質の向上及び事故防止に繋げている。</p> <p>事故対策委員会を設け、報告されたヒヤリハットや事故・トラブルを専門的に詳しく検討し、再発防止に向けて努めている。緊急時に備え、避難訓練・防火訓練の提案を行い、入居者・全職員で実施している。</p>		